

浜の活力再生プラン  
令和 6 ～ 1 0 年度  
第 3 期

## 1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID 129001

組織名	長原地区地域水産業再生委員会
代表者名	内海 貴文（長原漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	松茂町、長原漁業協同組合
オブザーバー	徳島県、徳島県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	<p>徳島県板野郡松茂町・北島町 対象漁業者数 47名（令和 5 年 12 月末現在） *以下、主要な着業漁業種類の内訳を示す。複数の漁業種類を兼業する者がいるため、合計値は組合員数と一致しない。</p> <p>黒海苔養殖業（3名） すじ青海苔養殖業（2名） 瀬戸内海機船船曳網漁業（2名） 延縄漁業（1名） 小型定置網漁業（5名） 刺網漁業（19名） 小型底曳網漁業（4名） 潜水漁業（8名） 一本釣り漁業（24名）</p>
-----------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区周辺海域は、紀伊水道に面し、吉野川・今切川・旧吉野川の 3 本の一級河川に挟まれた好漁場を有し、漁船漁業や藻類養殖業が盛んに行われている。当地区では、瀬戸内海機船船曳網漁業、延縄漁業、黒海苔養殖業、すじ青海苔養殖業を主体に小型定置網漁業、刺網漁業、小型底曳網漁業、一本釣り漁業が営まれている。

瀬戸内海機船船曳網漁業については、主に片ロイワシ稚魚を漁獲している。環境の変化により漁期が毎年違ってくことで漁獲量が想定できない状況である。後継者は漁業アカデミーに入学し、その後、船曳網漁業の船員となり順調に育っている。漁獲後の加工作業は徳島県外に依頼しているため「長原ブランド」にはできていないが、ふるさと納税の返礼品に使用し地域には浸透してきている。

黒海苔養殖業については、年々環境が悪化し生産期間が短縮されている。生産量の減少、経費増加での経営悪化等で廃業者もでてきている。高齢化もあり後継者が減少しているため存続が危ぶまれる。

吉野川河口では、すじ青海苔養殖業が営まれているが、昨今の水温上昇により種苗育成状

況の悪化や種網の張り込み時期の遅れがみられ、生産期間が年々短くなる傾向にある。生産量が減少したため、すじ青海苔の陸上養殖業が県内で始まり、生産量が安定したため価格の低迷まで引き問題となっている。

どの漁種にも共通して、近年の温暖化等外的要因による、水温の上昇・海流の変化など、かつて無い漁場の変化に対応が追いついていない状況である。

漁獲量の減少、品質の低下など、危機的状態である中、漁業者も試行錯誤しながら漁場を守っていきこうと日々奮闘している現状である。

燃油の高騰により漁業資材の値上がりがあり、高値のまま推移している。漁業者にとっては非常に負担となっている。

また、資材仕入れ業者を選択することも専門品になるため困難になっている。選択余地が無いため価格交渉も出来かねている。

漁業の低迷による機器等の取扱業者の衰退、メンテナンスの引継ぎ不可能など、漁業を継続していくことへの不安材料となっている。

漁業者を取り巻く環境も年々厳しくなっている状況である。

なお、当地域水産業再生委員会は、平成29年度から黒海苔・青海苔養殖広域水産業再生委員会（以下、「広域委員会」という。）の一員として広域浜プランの取組（第2期：令和5年度～9年度）に参加し、徳島県漁連、徳島県、県内の他の地域水産業再生委員会との連携を行っている。

## (2) その他の関連する現状等

当組合の地区である松茂町は、平成26年の人口15千人をピークに現在14千人と、年々減少傾向にある。主産業として、農業（サツマイモ・レンコン）工業（松茂工業団地）がある。他には、海上自衛隊、陸上自衛隊があり徳島銘菓である「金長まんじゅう」製菓業もある。徳島空港・高速バスターミナルがあり徳島県の玄関口になっている。そのため、観光客には通過点という認識傾向にある。交流拠点施設である「マツシゲート」で日曜市や各種イベントを開催し地域産業活性化に尽力している。月見ヶ丘海浜公園もあり海水浴が楽しめる。

北島町は、人口23千人と年々増加している。主産業として、大型商業施設や農業（チューリップ・レンコン）工業（大鵬薬品工業・四国化成工業）がある。北島チューリップ公園がある。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

### 【漁業収入向上のための取組】

1 黒海苔養殖業においては、引き続き漁場を有効活用し、栄養塩が不足状態にならないよう枠の間隔を広げ養殖環境を最適にするよう努力する。

県水産研究課等による水質調査の結果を参考に黒海苔養殖業者で意見交換をし、漁場の使用状態、張り込み時期の検討や水質の状態把握、囲い網の設置実行に努め、浜全体での黒海苔生産高・品質向上を目指す。

2 すじ青海苔養殖業においては、河川増水による被害を最小限に防ぐよう、ダムの放流状況を把握し、すじ青海苔の壊滅にならないよう、連絡網を作成していく。

また、他漁協とも情報交換し、すじ青海苔の品質向上・生産高の上昇を目指すとともに、現状を把握し網の張り方・時期、加工作業などを見直す努力をする。

品質の良い種網の確保が養殖の要となるが、天然採苗に頼っているため気象条件に左右されやすい。このため、県水産研究課が取り組んでいる人工採苗技術や新品種の開発情報に注視し、適宜、新技術の導入を進める。

3 瀬戸内海機船船曳網漁業では、引き続き曳き網時間の短縮で品質維持に努める。

また、漁獲量で左右される価格の下落を防ぐため休業日の設定を検討する。

さらに自らが漁獲したシラスを原料とした水産加工品の小売りも視野に入れ収入の向上を目指す。

4 延縄漁業では、活魚出荷に努めるとともに、鮮魚出荷については収入に繋がる氷締め等の販売方法を模索する。

5 松茂町主催の日曜日への出店で長原漁協をPRし、漁業者と地域住民の交流を図り、地元産業として小売にも対応していく事を視野に入れ、収入の増加を目指す。日曜市が定着してくれば、長原漁協独自の海産物（生海苔や生シラス）の販売を目指し、漁業者にとって良い宣伝効果をもたらすよう努める。

漁業に興味を持ち後継者育成に繋がるような体制をつくる。

### 【漁業コスト削減のための取組】

1 セーフティーネットの削減目標を活用し燃油漁業経費を削減する。

2 減速航行や船底清掃により燃料消費量を削減する。

3 機器等のメンテナンスにより漁業経費を抑制する。

### 【漁村の活性化のための取組】

漁業者は、松茂町主催の日曜日に出店し、長原漁協の漁業をPRし漁業者が増加するよう宣伝に取り組む。

## (3) 資源管理に係る取組

海苔養殖業以外の漁業は、漁業関係法令上、周年操業（1月1日から12月31日）が認められているが、自主的に休漁を実施し、操業時間も自主的に短縮して資源管理に努める。海苔養殖業については関係法令の他、漁業の方法や養殖施設の規模・区域等について管理・指導を行う。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）4.53%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 黒海苔養殖業者は、引き続き漁場を有効活用し、栄養塩が不足状態にならないよう枠の間隔を広げ黒海苔の養殖環境を最適にするよう努力する。 また、徳島県水産研究課等による水質調査の結果を参考に黒海苔養殖業者で意見交換をし、必要な情報提供の場を設け浜全体での黒海苔生産高・品質向上を目指す。</p> <p>2 すじ青海苔養殖業者は、河川増水による被害を最小限に防ぐよう、ダム の放流状況を把握し、すじ青海苔の壊滅にならないよう、連絡網を作成していく。また、他漁協とも情報交換し、すじ青海苔の品質向上・生産高の上昇を目指す。 また、県水産研究課の人工採苗や品種改良の技術開発に協力し、新技術が得られた際には、適宜、導入を検討する。</p> <p>3 瀬戸内海機船船曳網漁業者は、引き続き曳き網時間の短縮による品質向上に努める。 また、休業日設定を検討するため漁獲量、操業日、価格の情報を収集する。</p> <p>4 延縄漁業者は、活魚として出荷するために、出港前に陸送用の活魚水槽を事前に準備・点検し、最善の水質環境を整えておく。 鮮魚出荷になる魚については沖でのスピーディーな氷締めで品質管理に努める。</p> <p>5 漁業者は、松茂町主催の日曜日出店の対応のための体制整備に取り組む。</p> <p>以上、浜全体で漁種ごとの取組に努め基準年度の0.2%の平均単価向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 漁業者は、セーフティーネットの削減目標を活用し燃油漁業経費を削減する。</p> <p>② 漁業者は、減速航行を実施し燃料消費量の抑制に努める。 漁業者は、漁船船底清掃を年1回以上行い、航行時の抵抗を減らし燃料消費量の抑制に努める。</p> <p>③ 漁業者は、船体・機器・設備等のメンテナンスを実施し修繕費を抑制する。</p> <p>以上の漁業コスト削減に取り組み、燃油を基準年度の4%削減、修繕費を基準年度の1%削減に努める。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>漁業者は、松茂町主催の日曜日に出店し、長原漁協の漁業をPRし漁業者が増加するよう宣伝に取り組む。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティーネット構築事業 新規就業者確保・育成支援事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p>

	水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業
--	--------------------

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）6.11%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 黒海苔養殖業者は、引き続き漁場を有効活用し、栄養塩が不足状態にならないよう枠の間隔を広げ黒海苔の養殖環境を最適にするよう努力する。 また、徳島県水産研究課等による水質調査の結果を参考に黒海苔養殖業者で意見交換をし、必要な情報提供の場を設け浜全体での黒海苔生産高・品質向上を目指す。</p> <p>2 すじ青海苔養殖業者は、河川増水による被害を最小限に防ぐよう、ダムの放流状況を把握し、すじ青海苔の壊滅にならないよう、連絡網を作成していく。また、他漁協とも情報交換し、すじ青海苔の品質向上・生産高の上昇を目指す。 また、県水産研究課の人工採苗や品種改良の技術開発に協力し、新技術が得られた際には、適宜、導入を検討する。</p> <p>3 瀬戸内海機船船曳網漁業者は、引き続き曳き網時間の短縮による品質向上に努める。 また、休業日設定を検討するため漁獲量、操業日、価格の情報を収集する。</p> <p>4 延縄漁業者は、活魚として出荷するために、出港前に陸送用の活魚水槽を事前に準備・点検し、最善の水質環境を整えておく。 鮮魚出荷になる魚については沖でのスピーディーな氷締めで品質管理に努める。</p> <p>5 漁業者は、松茂町主催の日曜日出店の対応のための体制整備に取り組む。</p> <p>以上、浜全体で漁種ごとの取組に努め基準年度の0.4%の平均単価向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 漁業者は、セーフティーネットの削減目標を活用し燃油漁業経費を削減する。</p> <p>② 漁業者は、減速航行を実施し燃料消費量の抑制に努める。 漁業者は、漁船船底清掃を年1回以上行い、航行時の抵抗を減らし燃料消費量の抑制に努める。</p> <p>③ 漁業者は、船体・機器・設備等のメンテナンスを実施し修繕費を抑制する。</p> <p>以上の漁業コスト削減に取り組み、燃油を基準年度の4%削減、修繕費を基準年度の1%削減に努める。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>漁業者は、松茂町主催の日曜日に出店し、漁業をPRし漁業者が増加するよう宣伝に取り組む。</p>

活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業 新規就業者確保・育成支援事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業
-----------	--

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）7.69%

漁業収入向上のための取組	<p>1 黒海苔養殖業者は、引き続き漁場を有効活用し、栄養塩が不足状態にならないよう枠の間隔を広げ黒海苔の養殖環境を最適にするよう努力する。          また、徳島県水産研究課等による水質調査の結果を参考に黒海苔養殖業者で意見交換をし、必要な情報提供の場を設け浜全体での黒海苔生産高・品質向上を目指す。</p> <p>2 すじ青海苔養殖業者は、河川増水による被害を最小限に防ぐよう、ダムの放流状況を把握し、すじ青海苔の壊滅にならないよう、連絡網を作成していく。また、他漁協とも情報交換し、すじ青海苔の品質向上・生産高の上昇を目指す。          また、県水産研究課の人工採苗や品種改良の技術開発に協力し、新技術が得られた際には、適宜、導入を検討する。</p> <p>3 瀬戸内海機船船曳網漁業者は、引き続き曳き網時間の短縮による品質向上に努める。          また、休業日設定を検討するため漁獲量、操業日、価格の情報を収集する。</p> <p>4 延縄漁業者は、活魚として出荷するために、出港前に陸送用の活魚水槽を事前に準備・点検し、最善の水質環境を整えておく。          鮮魚出荷になる魚については沖でのスピーディーな氷締めで品質管理に努める。</p> <p>5 漁業者は、松茂町主催の日曜日出店の対応のための体制整備に取り組む。</p> <p>以上、浜全体で漁種ごとの取組に努め基準年度の0.6%の平均単価向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>① 漁業者は、セーフティーネットの削減目標を活用し燃油漁業経費を削減する。</p> <p>② 漁業者は、減速航行を実施し燃料消費量の抑制に努める。          漁業者は、漁船船底清掃を年1回以上行い、航行時の抵抗を減らし燃料消費量の抑制に努める。</p> <p>③ 漁業者は、船体・機器・設備等のメンテナンスを実施し修繕費を抑制する。</p> <p>以上の漁業コスト削減に取り組み、燃油を基準年度の4%削減、修繕費を基準年度の1%削減に努める。</p>

漁村の活性化のための取組	漁業者は、松茂町主催の日曜市に出店し、漁業をPRし漁業者が増加するよう宣伝に取り組む。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業 新規就業者確保・育成支援事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）9.26%

漁業収入向上のための取組	<p>1 黒海苔養殖業者は、引き続き漁場を有効活用し、栄養塩が不足状態にならないよう枠の間隔を広げ黒海苔の養殖環境を最適にするよう努力する。 また、徳島県水産研究課等による水質調査の結果を参考に黒海苔養殖業者で意見交換をし、必要な情報提供の場を設け浜全体での黒海苔生産高・品質向上を目指す。</p> <p>2 すじ青海苔養殖業者は、河川増水による被害を最小限に防ぐよう、ダム流放流状況を把握し、すじ青海苔の壊滅にならないよう、連絡網を作成していく。また、他漁協とも情報交換し、すじ青海苔の品質向上・生産高の上昇を目指す。 また、県水産研究課の人工採苗や品種改良の技術開発に協力し、新技術が得られた際には、適宜、導入を検討する。</p> <p>3 瀬戸内海機船船曳網漁業者は、引き続き曳き網時間の短縮による品質向上に努める。 また、休業日設定を検討するため漁獲量、操業日、価格の情報を収集する。</p> <p>4 延縄漁業者は、活魚として出荷するために、出港前に陸送用の活魚水槽を事前に準備・点検し、最善の水質環境を整えておく。 鮮魚出荷になる魚については沖でのスピーディーな氷締めで品質管理に努める。</p> <p>5 漁業者は、松茂町主催の日曜市出店の対応のための体制整備に取り組む。</p> <p>以上、浜全体で漁種ごとの取組に努め基準年度の0.8%の平均単価向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>① 漁業者は、セーフティーネットの削減目標を活用し燃油漁業経費を削減する。</p> <p>② 漁業者は、減速航行を実施し燃料消費量の抑制に努める。 漁業者は、漁船船底清掃を年1回以上行い、航行時の抵抗を減らし燃料消費量の抑制に努める。</p> <p>③ 漁業者は、船体・機器・設備等のメンテナンスを実施し修繕費を抑制する。</p> <p>以上の漁業コスト削減に取り組み、燃油を基準年度の4%削減、修繕費を基準年度の1%削減に努める。</p>

漁村の活性化のための取組	漁業者は、松茂町主催の日曜市に出店し、漁業をPRし漁業者が増加するよう宣伝に取り組む。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 新規就業者確保・育成支援事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）10.84%

漁業収入向上のための取組	<p>1 黒海苔養殖業者は、引き続き漁場を有効活用し、栄養塩が不足状態にならないよう枠の間隔を広げ黒海苔の養殖環境を最適にするよう努力する。 また、徳島県水産研究課等による水質調査の結果を参考に黒海苔養殖業者で意見交換をし、必要な情報提供の場を設け浜全体での黒海苔生産高・品質向上を目指す。</p> <p>2 すじ青海苔養殖業者は、河川増水による被害を最小限に防ぐよう、ダムの放流状況を把握し、すじ青海苔の壊滅にならないよう、連絡網を作成していく。また、他漁協とも情報交換し、すじ青海苔の品質向上・生産高の上昇を目指す。 また、県水産研究課の人工採苗や品種改良の技術開発に協力し、新技術が得られた際には、適宜、導入を検討する。</p> <p>3 瀬戸内海機船船曳網漁業者は、引き続き曳き網時間の短縮による品質向上に努める。 また、休業日設定を検討するため漁獲量、操業日、価格の情報を収集する。</p> <p>4 延縄漁業者は、活魚として出荷するために、出港前に陸送用の活魚水槽を事前に準備・点検し、最善の水質環境を整えておく。 鮮魚出荷になる魚については沖でのスピーディーな氷締めで品質管理に努める。</p> <p>5 漁業者は、松茂町主催の日曜市出店の対応のための体制整備に取り組む。</p> <p>以上、浜全体で漁種ごとの取組に努め基準年度の1%の平均単価向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>① 漁業者は、セーフティネットの削減目標を活用し燃油漁業経費を削減する。</p> <p>② 漁業者は、減速航行を実施し燃料消費量の抑制に努める。 漁業者は、漁船船底清掃を年1回以上行い、航行時の抵抗を減らし燃料消費量の抑制に努める。</p> <p>③ 漁業者は、船体・機器・設備等のメンテナンスを実施し修繕費を抑制する。</p> <p>以上の漁業コスト削減に取り組み、燃油を基準年度の4%削減、修繕費を基準年度の1%削減に努める。</p>

漁村の活性化のための取組	漁業者は、松茂町主催の日曜市に出店し、漁業をPRし漁業者が増加するよう宣伝に取り組む。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業 新規就業者確保・育成支援事業 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

(5) 関係機関との連携

広域委員会、松茂町、徳島県水産振興課、徳島県漁業協同組合連合会と連携して事業を行う。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

漁業漁獲成績報告書・漁業共済日報で船曳網・延縄漁業は評価する。黒海苔・すじ青海苔は、県漁連共販で品質確認、価格の評価をする。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

燃油コストの削減 4%以上	基準年	平成 30 年～ 令和 4 年度 の 5 年平均：	18,942	(千円)
	目標年	令和 10 年度：	18,184	(千円)

修繕コストの削減1%以上	基準年	平成30年～ 令和4年度 の5年平均：	18,060	(千円)
	目標年	令和10年度：	17,879	(千円)

日曜市の出店によるPR	基準年	平成30年～ 令和4年度 の5年間	0	回/年
	目標年	令和10年度	1	回/年

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>正組合員の内、黒海苔養殖業（2名）、すじ青海苔養殖業（1名）、瀬戸内海機船船曳網漁業（2名）、延縄漁業（1名）の6名を抽出し、収入、経費は各人の確定申告書から算出した。</p> <p>日曜市の出店によるPRは、長原漁業協同組合で浜の活性化として年1回の出店を実施。</p>
---

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油価格高騰時に補填を受け、経費負担を軽減することで漁業経営の安定化を図る。
漁業担い手確保・育成事業	漁業学校等で学ぶ新規漁業就業予定者に就業準備資金を交付。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	生産性の向上、省力・省コスト化に資する機器等の導入による収入の増加又は経費削減。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	リース方式による漁船購入を支援。
IoTを活用した藻類養殖の食害対策手法及び安定生産手法の検討	水中カメラ、リアルタイム水質情報システム等を活用し、食害魚種と出現パターンを把握することで、海藻養殖漁場と藻場を維持管理する手法を検討、令和3年度から開始。令和4年度から6年度も継続しているが、まだ活用していない。研究の結果により活動予定。